

2025 年 11 月 17 日

各 位

会 社 名 環境のミカタホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役 渡辺 和良
 (コード：406A TOKYO PRO Market)
 問合せ先 取締役グループ統括経営企画部長 田中 健吾
 電話番号 054-622-1130

上場廃止になった子会社（環境のミカタ株式会社）に関する 2025 年 9 月期通期業績予想と実績との差異及び 2025 年 9 月期個別業績と前期実績との差異に関するお知らせ

2025 年 10 月 1 日をもって完全子会社化した環境のミカタ株式会社に関する 2025 年 9 月期決算（2024 年 10 月 1 日から 2025 年 9 月 30 日まで）において、2024 年 11 月 15 日に公表しました 2025 年 9 月期の通期連結業績予想と本日公表の実績に差異が生じたほか、個別業績につきましても前期実績値との差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2025 年 9 月期通期連結業績予想と実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,588	254	212	87	621 .83
実績 (B)	2,415	99	53	△6	△47 .50
増減額 (B-A)	△173	△155	△159	△94	
増減率 (%)	△6.7	△61.0	△75.0	—	
(参考) 前期連結実績 (2024年9月期)	2,237	70	52	82	580 .42

2. 2025 年 9 月期の個別業績と前期実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績 (A)	1,654	△52	△32	4	33 .57
当期実績 (B)	1,745	6	7	△37	△262 .36
増減額 (B-A)	91	58	39	△41	
増減率 (%)	5.5	—	—	—	

3. 差異の理由

(連結)

売上高については、既存取引先の取引は堅調に推移し、同業他社からの廃棄物受入を中心に回収量が増加したものの、一部の排出事業者において計画どおりの回収が行えなかったことから、産業廃棄物の受入量が不足し、前回予想を下回りました。

営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益については、売上高の減少が影響したほか、売上高減少に対する売上原価の減少幅が限定的であったことにより、利益を圧迫しました。また、デジタルピュアリサイクル株式会社において、商品売上高が好調に推移した一方で製品仕入が増加し、売上原価が上昇したことから、全体として前回予想値を下回る結果となりました。

(個別)

売上高については、2024 年 5 月より増設した RPF 固形燃料製造施設が新たに稼働したことにより、受入量が増加したため、前期実績値を上回りました。

営業利益および経常利益については、RPF 固形燃料製造施設の稼働に伴い売上原価が増加したものの、売上高の増加がこれを補ったことから、前期実績値を上回る結果となりました。

当期純利益については、2026 年に稼働を予定している新たなリサイクル施設に係る補助金が採択されたことに伴い、同補助金に関連するコンサルティング費用等が増加したため、前期実績値を下回りました。

以上